

Title	編集後記
Sub Title	Editor's note
Author	今井, 就稔(Imai, Narumi)
Publisher	「満洲の記憶」研究会
Publication year	2023
Jtitle	満洲の記憶 No.9 (2023. 12) ,p.139- 139
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32003001-20231200-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

『満洲の記憶』第9号をお届けします。コロナ禍における諸活動の制約もあり、前号の刊行から2年以上ブランクが生じてしまいましたが、多くの方々のご協力のおかげで本号を無事発行することができました。関係者の方々には深く御礼申し上げます。

本号は引揚者の回想録2編、書評会の報告1編、調査記2編から構成されています。安武誠子氏による戦後熊本日記は、満洲国の諸都市で記者として働いていた安武氏が故郷熊本に引揚げてからの生活の克明な記録です。今後も数回に分けて本誌に掲載する予定です。奥村松平氏の「洪熙の残照」は連載の3回目になります。ソ連兵や中国の公安との間で起きた事件やエピソードに関する緊迫した描写が印象的です。書評会の報告では、本島和人氏の満洲移民と青少年義勇軍に関する力作を皆で読み込み、議論した内容をまとめました。

コロナウイルスの拡大にともなう活動制限がようやく解除され、社会にも活気が少しずつ戻ってきました。この数年間、本研究会の活動も大きな制約を受けてきましたが、その一方で、オンライン会議のノウハウが蓄積され、地理的に遠く離れた人同士であってもリアルタイムで議論や情報交換をすることが日常的になり、本研究会にとっては今後の活動のヒントとなるような経験ともなった気がいたします。資料調査や各種フィールドワーク、そして研究会や大会などの場における関係者の方々との対面での出会い・交流は今までどおり大切にしていこう一方、オンラインでの活動も随時取り入れながら本研究会を運営していきたいと思っています。今後どうぞよろしく願いいたします。
(今井就稔)